ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なることがございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいますようお願いいたします。

加入協会
日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
商号等
楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

外国株式のリスクと費用について

■外国株式　海外ETF／ETN／REIT

【外国株式等の取引にかかるリスク】
外国株式等は、株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、為替相場の変動等により損失（為替差損）が生じるおそれがあります。上場投資信託（ETF）は連動対象となっている指数や指標等の変動等、上場投資証券（ETN）は連動対象となっている指数や指標等の変動等や発行体となる金融機関の信用力悪化等、上場不動産投資信託証券（REIT）は運用不動産の価格や収益力の変動等により、損失が生じるおそれがあります。

●レバレッジ型、インバース型ＥＴＦ及びＥＴＮのお取引にあたっての留意点
　上場有価証券等のうち、レバレッジ型、インバース型のETF及びETN（※）のお取引にあたっては、以下の点にご留意ください。
・ レバレッジ型、インバース型のETF及びETNの価額の上昇率・下落率は、2営業日以上の期間の場合、同期間の原指数の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じたものとは通常一致せず、それが長期にわたり継続することにより、期待した投資成果が得られないおそれがあります。
・ 上記の理由から、レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、中長期間的な投資の目的に適合しない場合があります。
・ レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、投資対象物や投資手法により銘柄固有のリスクが存在する場合があります。詳しくは別途銘柄ごとに作成された資料等でご確認いただく、またはコールセンターにてお尋ねください。
※「上場有価証券等」には、特定の指標（以下、「原指数」といいます。）の日々の上昇率・下落率に連動し1日に一度価額が算出される上場投資信託（以下「ETF」といいます。）及び指数連動証券（以下、「ETN」といいます。）が含まれ、ETF及びETNの中には、原指数の日々の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じて算出された数値を対象指数とするものがあります。このうち、倍率が＋（プラス）１を超えるものを「レバレッジ型」といい、－（マイナス）のもの（マイナス１倍以内のものを含みます）を「インバース型」といいます。

外国株式のリスクと費用について

【米国株式の信用取引にかかるリスク】
米国株式信用取引の対象となっている株式等の株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。米国株式信用取引は差し入れた委託保証金を上回る金額の取引をおこなうことができるため、大きな損失が発生する可能性があります。その損失額は差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。また、米国株式信用取引は外貨建てで行う取引であることから、米国株式信用取引による損益は外貨で発生します。そのため、お客様の指示により外貨を円貨に交換する際の為替相場の状況によって為替差損が生じるおそれがあります。

【外国株式等の取引にかかる費用】
〔現物取引〕
1回のお取引金額で手数料が決まります。

分類	取引手数料
米国株式	約定代金の0.495%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：22米ドル（税込）
中国株式	約定代金の0.275%（税込） ・最低手数料：550円（税込） ・上限手数料：5,500円（税込）
アセアン株式	約定代金の1.10%（税込） ・最低手数料：550円（税込） ・手数料上限なし

※当社が別途指定する銘柄の買付手数料は無料です。
※米国株式の売却時は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。
※中国株式・アセアン株式につきましては、カスタマーサービスセンターのオペレーター取次ぎの場合、通常の取引手数料に2,200円（税込）が追加されます。

外国株式のリスクと費用について

〔米国株式信用取引〕
1回のお取引金額で手数料が決まります。

取引手数料
約定代金の0.33%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：16.5米ドル（税込）

米国株大口優遇の判定条件を達成すると、以下の優遇手数料が適用されます。米国株大口優遇は一度条件を達成すると、3ヶ月間適用になります。詳しくは当社ウェブページをご参照ください。

〔米国株式信用取引（米国株大口優遇）〕
約定金額にかかわらず取引手数料は0米ドルです。

※当社が別途指定する銘柄の新規買建または買返済時の取引手数料は無料です。
※売却時（信用取引の場合、新規売建/売返済時）は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。

●米国株式信用取引には、上記の売買手数料の他にも各種費用がかかります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

●米国株式信用取引をおこなうには、委託保証金の差し入れが必要です。最低委託保証金は当社が指定する30万円相当額、新規建て時に最低必要な委託保証金率は50%、委託保証金最低維持率（追証ライン）が30%です。委託保証金の保証金率が30%未満となった場合、不足額を所定の時限までに当社に差し入れていただき、委託保証金へ振替えていただくか、建玉を決済していただく必要があります。

外国株式のリスクと費用について

【米国貸株サービスにかかるリスクおよび費用】

●リスクについて

米国貸株サービスの利用に当社とお客様が締結する契約は「消費貸借契約」となります。株券等を貸付いただくにあたり、楽天証券よりお客様へ担保の提供はなされません（無担保取引）。

●投資者保護基金の対象とはなりません

貸付いただいた株券等は、証券会社が自社の資産とお客様の資産を区別して管理する分別保管および投資者保護基金による保護の対象とはなりません。

●手数料等諸費用について

お客様は、株券等を貸付いただくにあたり、取引手数料等の費用をお支払いいただく必要はありません。

●配当金等、株主の権利・義務について

貸借期間中、株券等は楽天証券名義又は第三者名義等になっています。そのため、貸借期間中に権利確定日が到来した場合の配当金については、発行会社より配当の支払いがあった後所定の期日に、所得税相当額を差し引いた配当金相当額が楽天証券からお客様へ支払われます。また、株式分割等コーポレートアクションが発生した場合（整数倍の株式分割を除く）、自動的にお客様の口座に対象銘柄を返却することで、お客様は、株主の権利を獲得します。

●配当金の情報について

米国貸株サービスにおける配当金の情報は、S&Pグローバル社より提供されるデータを基にしており、原則として毎営業日の更新となります。配当金は各企業の判断で廃止・変更になる場合がありますので、必ず当該企業のホームページ等で内容をご確認ください。

●大量保有報告の提出について

貸株対象銘柄について、楽天証券およびまたはそのグループ会社等の保有が基準以上となった際にSEC（Securities and Exchange Commission：米国証券取引委員会）に報告書を提出する必要が生じます。その場合において、お客様の氏名、取引株数、契約の種類（株券消費貸借契約である旨）等を報告書に記載させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

●税制について

株券貸借取引で支払われる貸借料及び貸借期間中に権利確定日が到来した場合の配当金相当額は、お客様が個人の場合、一般に雑所得又は事業所得として、総合課税の対象となります。なお、配当金相当額は、配当所得そのものではないため、配当控除は受けられません。また、配当金相当額は外国税額控除の対象外です。また、お客様が法人の場合、一般に法人税に係る所得の計算上、益金の額に算入されます。税制は、お客様によりお取り扱いが異なる場合がありますので、詳しくは、税務署又は税理士等の専門家にご確認ください。

第4回

ボーナスでたら米国株投資に挑戦！
アクティブETFと高配当ETFの使い分けで長期的な資産形成を応援

目次

1. 米国市場状況の概要

2. AIバブル懸念

【アクティブETFと高配当ETFの使い分けで長期的な資産形成を応援】

3. 各種ファンド（ETF）比較

4. アクティブETFのご紹介

5. 運用方針まとめ

6. まとめ

1.米国株市況-指数レベル

全ての指数がじり高状態。最高値も更新。

年初来

半導体指数
+27.58%

ナスダック**+15.65%**

ダウ**+9.15%**

S&P500**+12.72%**

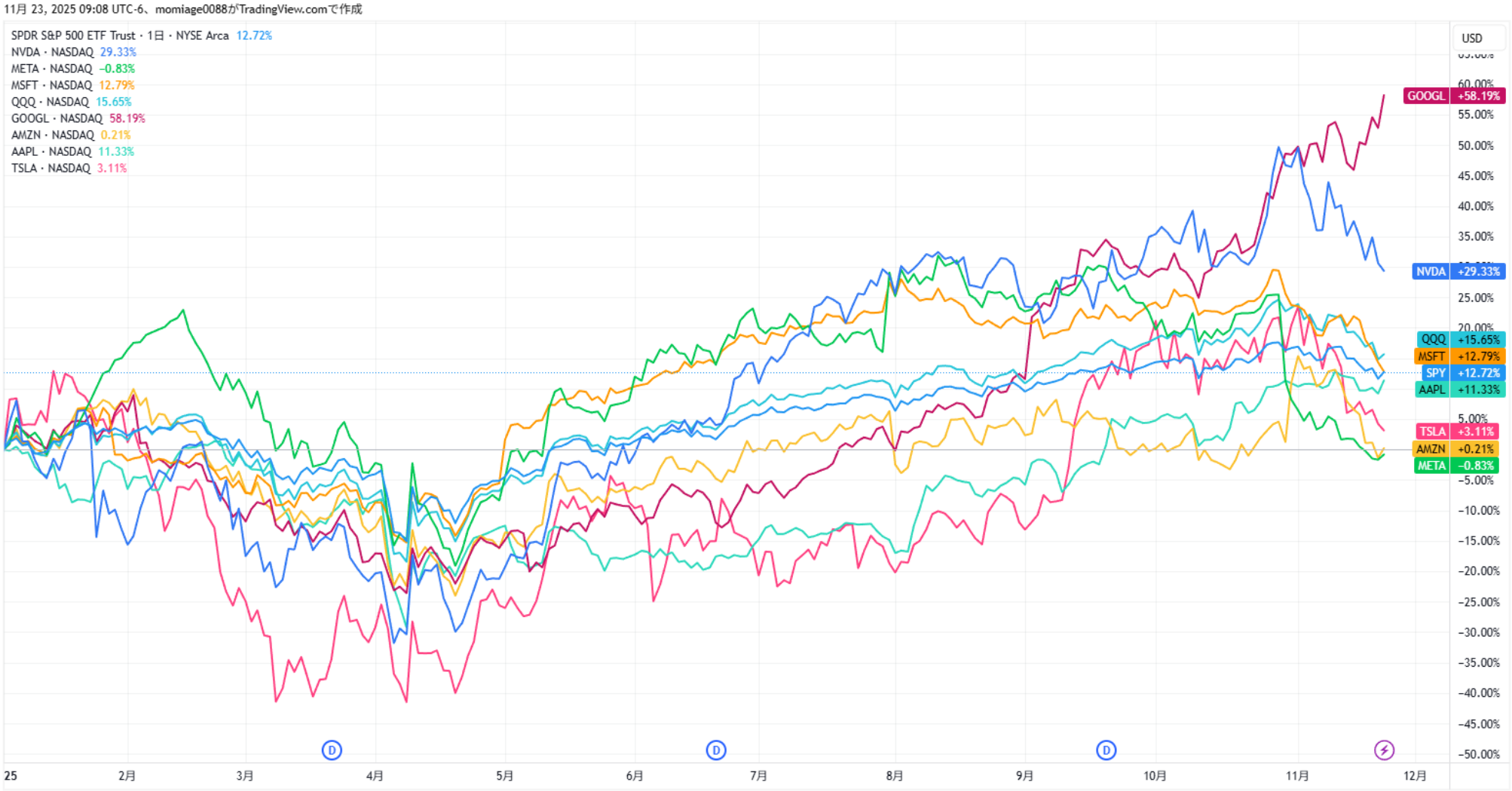
ラッセル**+6.54%**

緑：半導体指数
青:ナスダック
オレンジ：ダウ
黄色：SP500
紫：ラッセル

出展：Trading View 2025年11月21日時点

1.米国株市況-テック大型株（M7）

マーケットを牽引する銘柄がNVDAからGOOGLに変化。負け組はMETAに



年初来

GOOGL+58%
NVDA +29.3%
ナスダック+15.65%
MSFT+12.8%
S&P500+12.7%
AAPL+11.3%
TSLA+3.1%
AMZN+0.2%
META-0.8%

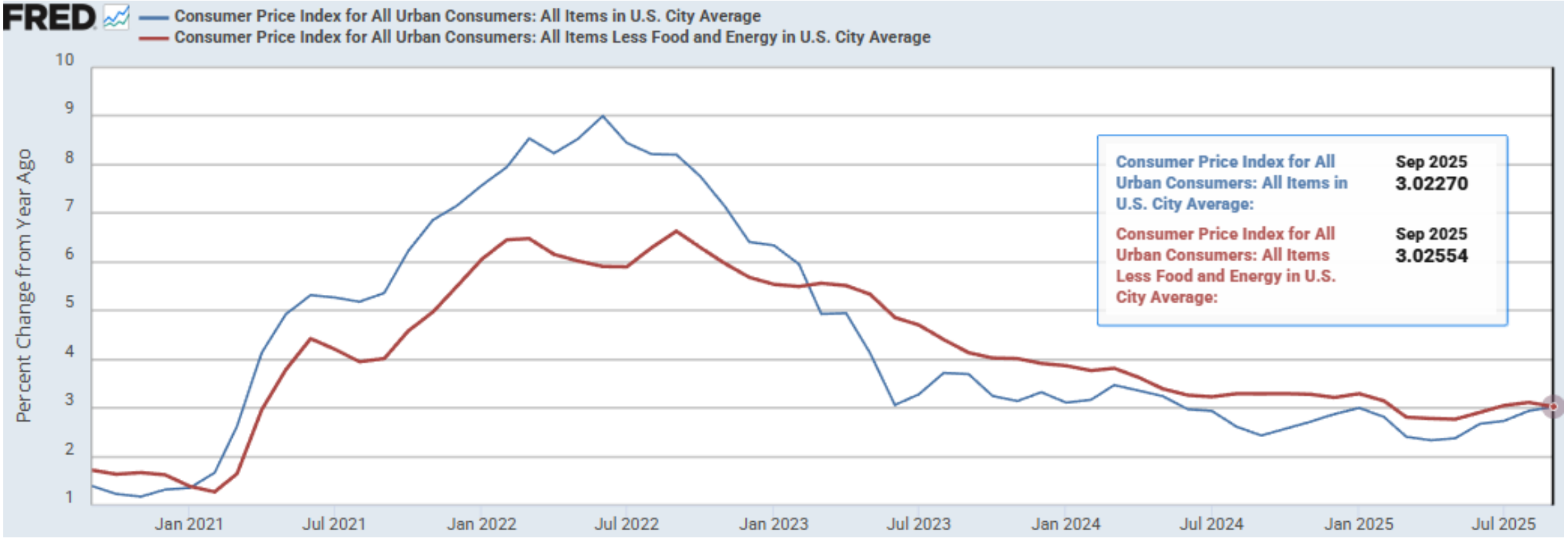
※グーグルが一気に年初来トップに。シンプルにAIをビジネスに結び付けられていることが評価を高めてる。

出展：Trading View 2025年11月21日時点

1.米国株市況-インフレ率の変遷

・CPI総合指数は横ばい、コアは段階的に下落してきた
・12月利下げに見解が分かれる状況

青:総合指数　赤:コア指数（食品とエネルギー除く）



出展：https://fred.stlouisfed.org/graph/?g=rocU

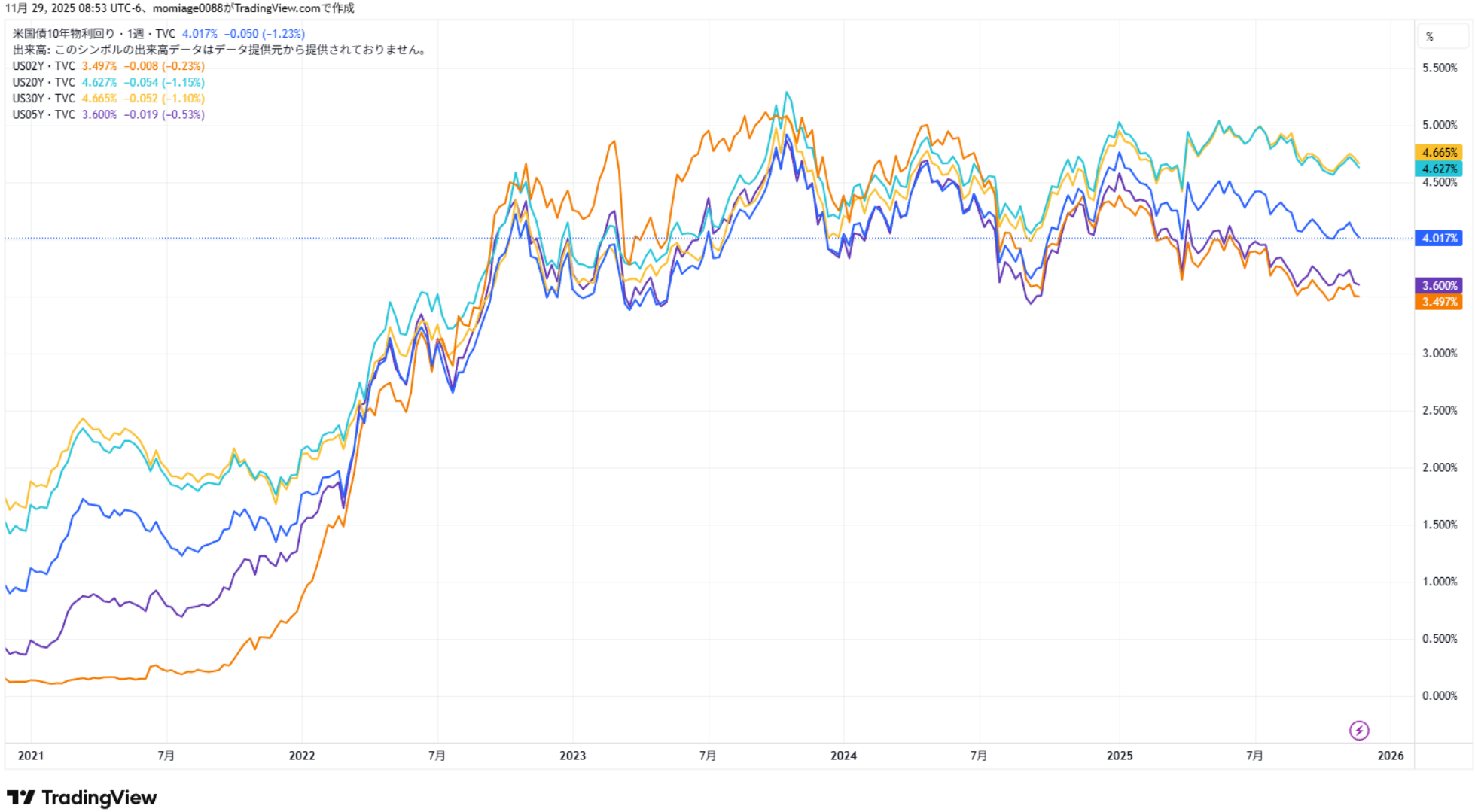
1.米国株市況-ドルインデックス

ドル安継続、ドル高のサポートも割り込んでいる
トランプ政権としては歓迎される状況に

出展：Trading View
2025年11月21日時点

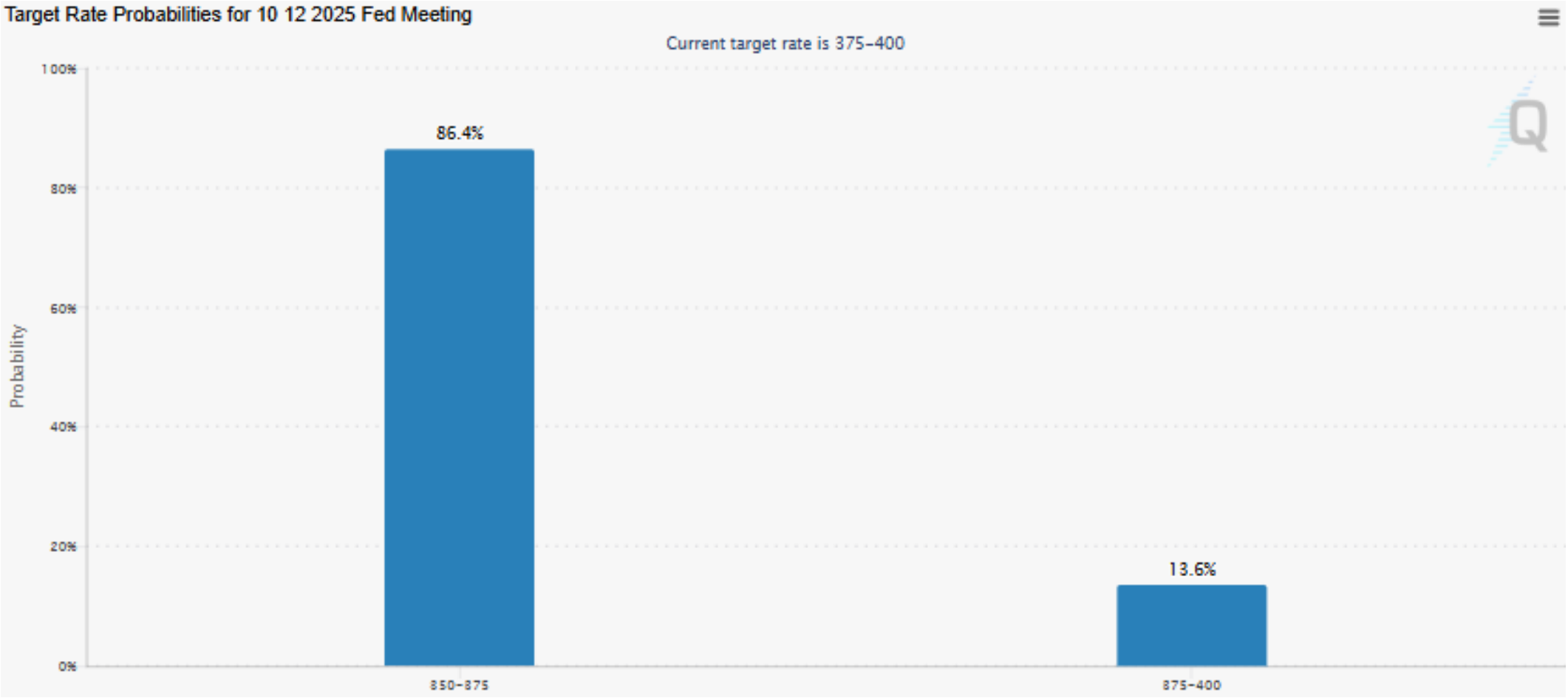
1.米国株市況-金利

利下げサイクルに入り全ての年限が下落中。債券的には今の所特定リスクが見当たらない



1.米国株市況-FOMC予想（11月末時点）

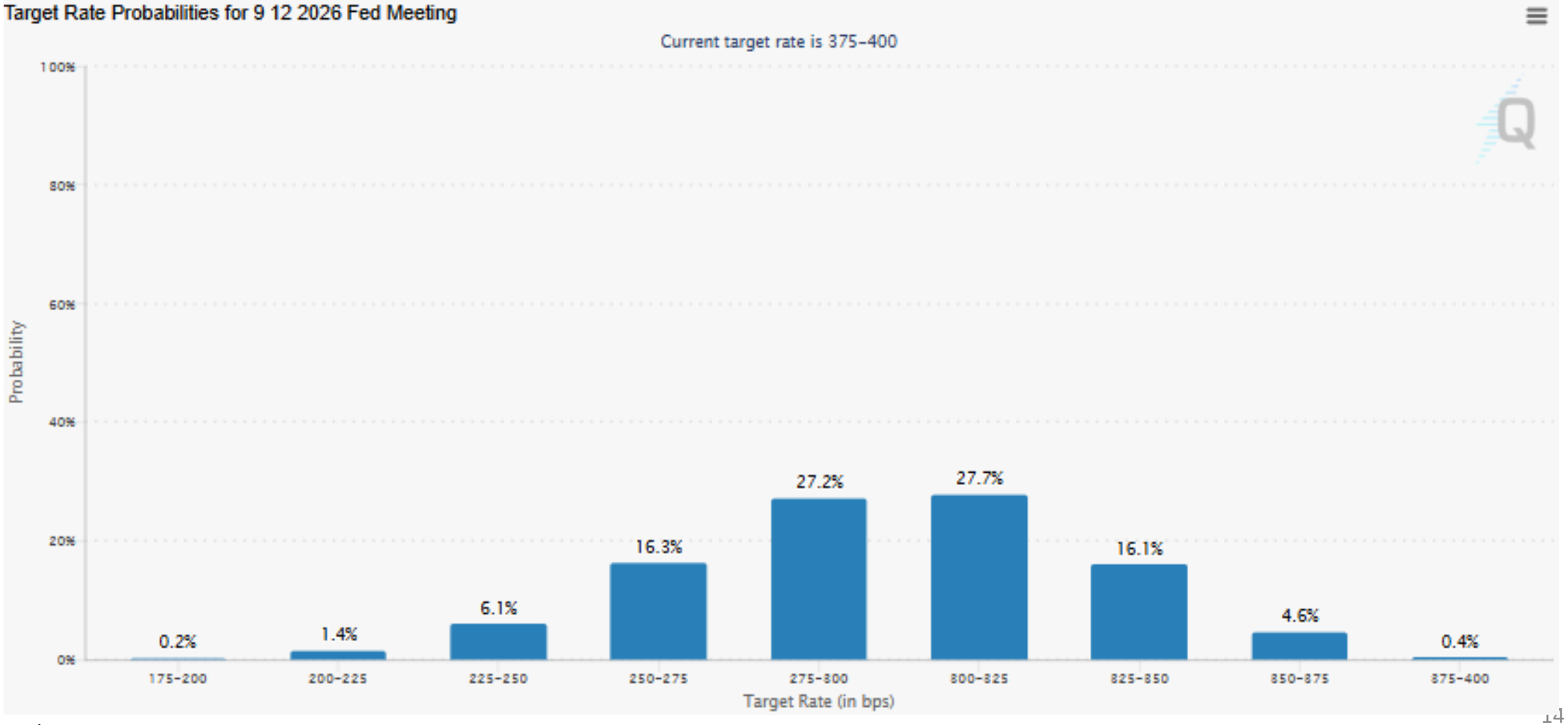
2025年12月FOMC政策金利予想：350-375(現在375-400)(４月は325-375)
利下げ確率86%ほど



引用：https://www.cmegroup.com/ja/markets/interest-rates/cme-fedwatch-tool.html

1.米国株市況-FOMC2026予想（11月末時点）

2026年12月FOMC政策金利予想：275-325(現在375-400)
よって利下げは2026年は2回～3回と予想されている（※2025年12月利下げ前提）



引用：https://www.cmegroup.com/ja/markets/interest-rates/cme-fedwatch-tool.html

1.米国株市況-2025年サマリー

・ここまで

①マーケットのトランプへの過小評価

②AIブームの鎮静化によるバリュエーション調整→NVDA・PLTRのベア状況

③米国企業の底堅い決算だが中小企業の倒産件数は過去最高レベル

④利下げは様子見から9月利下げスタートで12月利下げ可能性高い

⑤米国大型企業の自社株買いの株価支え

⑥関税騒動からの高揚なき高騰

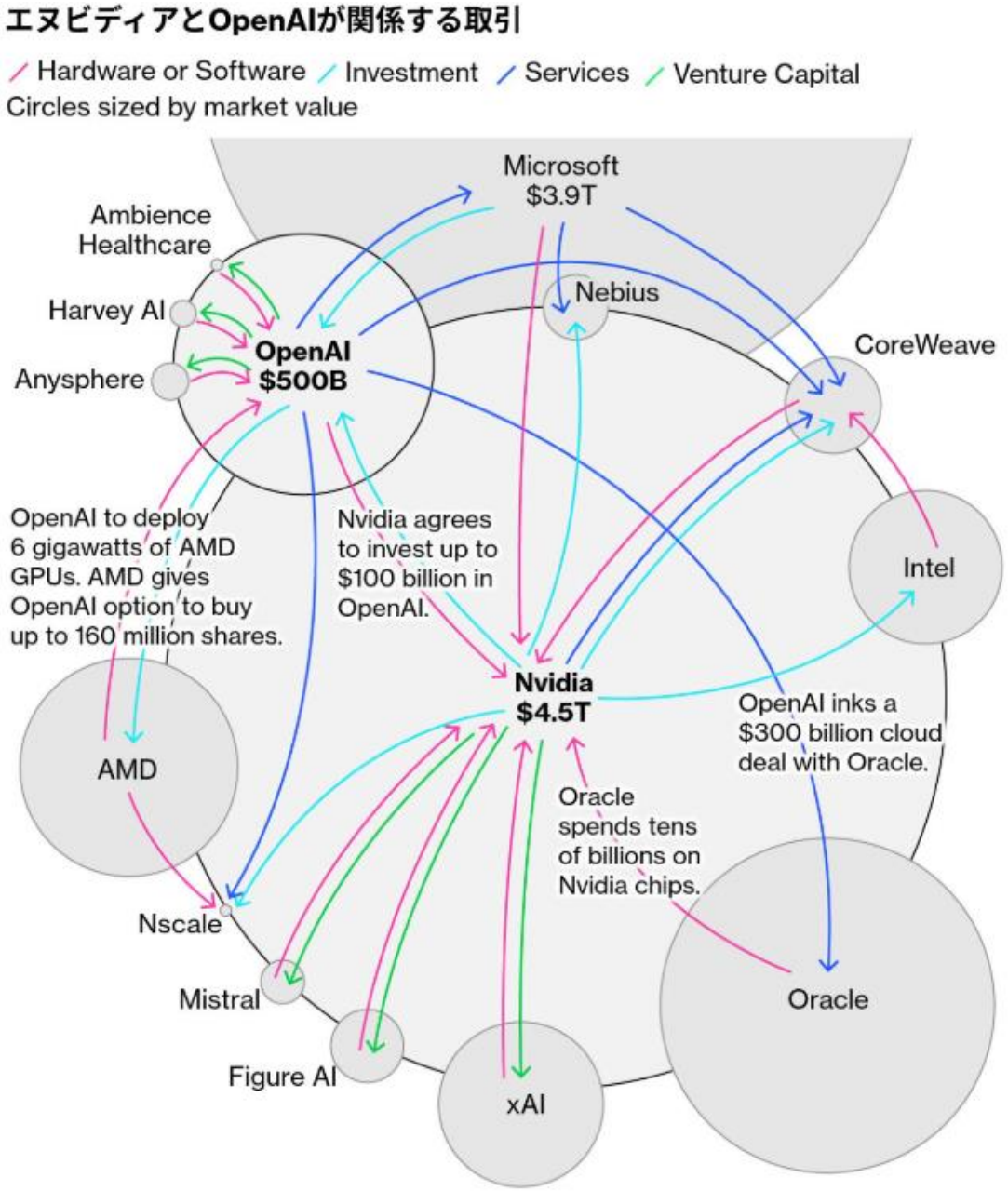
⑦関税騒動はほぼ完結（米中の綱引きは続く）

・これから

①AIバブル状況下の綱引き（ROIの正当化）

②インフレ再燃かFEDの2%目標値への到達か

2.AIバブル懸念-ROIの正当化

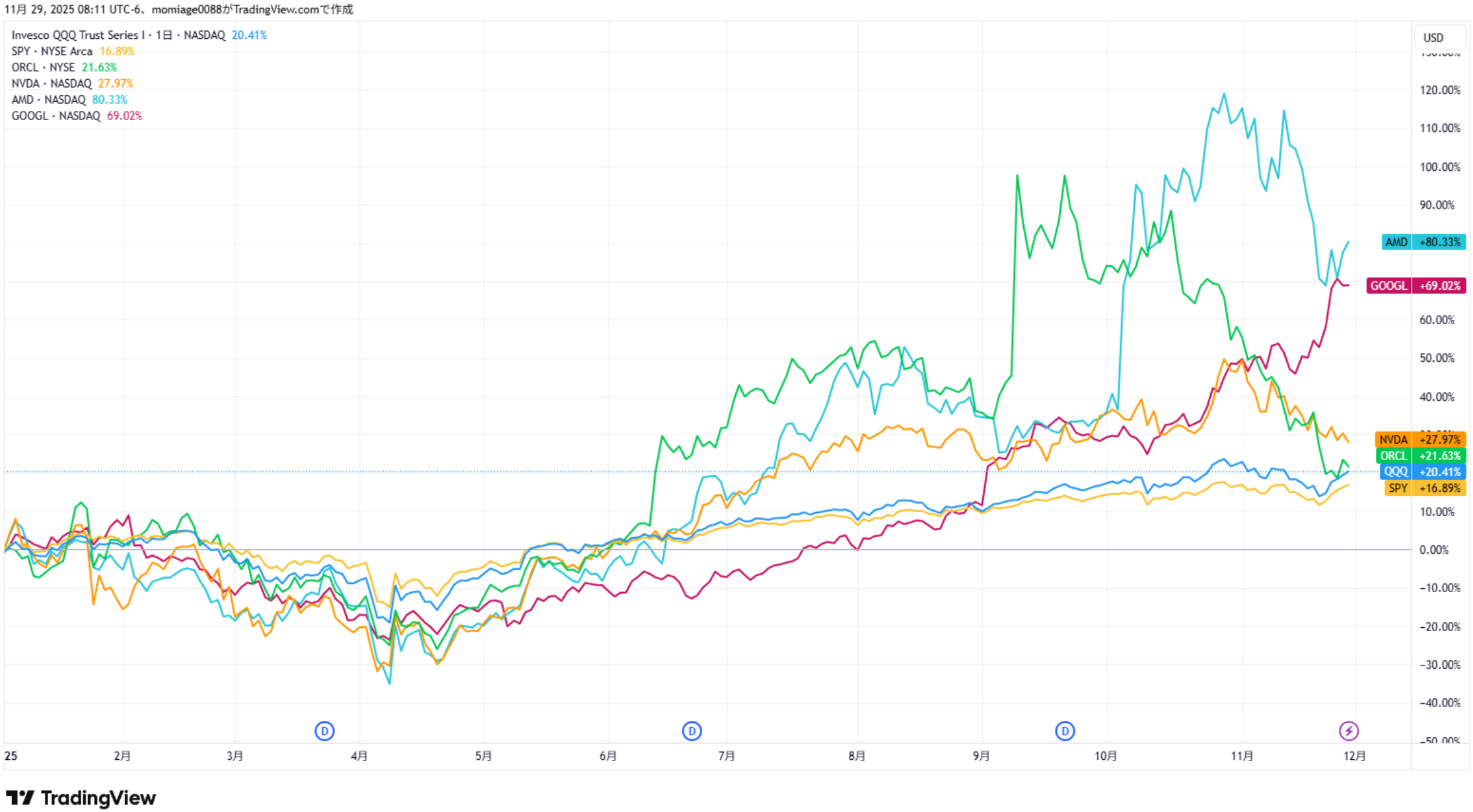


①・黒字化の道筋が定まらない技術にこれほど巨額の資金が、これほどハイペースで投じられた例は過去にない。しかも多くの場合、これらの投資はエヌビディアとOpenAIという2社に行き着く。
・OpenAIはエヌビディア、AMD、オラクルとAIコンピューティング契約を締結し、総額は1兆ドルを上回る可能性がある。OpenAIはその一方で、現金を急速に消費し、キャッシュフローがプラスになるのは数年先になる見通し（ブルームバーグ引用）

②ROIとは、Return on Investment（投資利益率）の略で、投じた費用に対して、どれだけの利益が出たかを示す指標です。
要はこのサイクルの企業達が黒字化してROIにおいて期待される莫大な利益を生み出す企業になれるかどうかです。

https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2025-10-09/T3S2DGGPFI6F00

2.AIバブル懸念-ROIの正当化



【年初来】

AMD+80.3%

GOOGL+69%

NVDA+28%

ORCL+21.6%

QQQ+20.4%

SPY+16.9%

ボーナスでたら米国株投資に挑戦！
アクティブETFと高配当ETFの使い分けで長期的な資産形成を応援

3.インデックス・アクティブ・高配当とは？

・インデックスファンド（パッシブ・ファンド）

S&P500や日経平均株価やTOPIXなどの特定の市場指数（インデックス）に連動することを目指すファンド

・アクティブファンド

特定の指数（ベンチマーク）を上回る運用成果を目指す投資信託のことです。運用担当者（ファンドマネージャー）が、市場調査や企業分析に基づいて銘柄を選んだり、投資配分を機動的に変更したりすることで、市場平均以上のリターンを追求します

・高配当ETF

インデックスでもアクティブでも投資先が配当や金利収入が相対的に多く、潤沢な現金収入が期待できる銘柄群を指します

3.インデックス・アクティブ比較

総合的にはインデックスに軍配が上がるが
特定目的であればアクティブ活用もメリットがある

	インデックス	アクティブ
運用方針	特定の指数に準じる運用	市場平均を上回ることを目指す
メリット	・コスト安 ・S&P500、ナスダック100に準じるだけで相当な強み	リスク対応にフレキシブル
デメリット	暴落時などは柔軟性には欠ける	・運用コストが高い ・期待通りの成果が上がらない可能性あり
代表ETF	SPY,VOO,QQQ,VYM	JEPQ,JEPI,JPST,TSLL

3.各種ETF年初来パフォーマンス比較

【年初来】

QQQ+20.4%

SPY+16.9%

DIA+12.6%

IWM+12.5%

JEPQ+4.5%

JEPI+0.73%

JPST+0.71%

QYLD-3.96%

3.各種ETFバックテスト

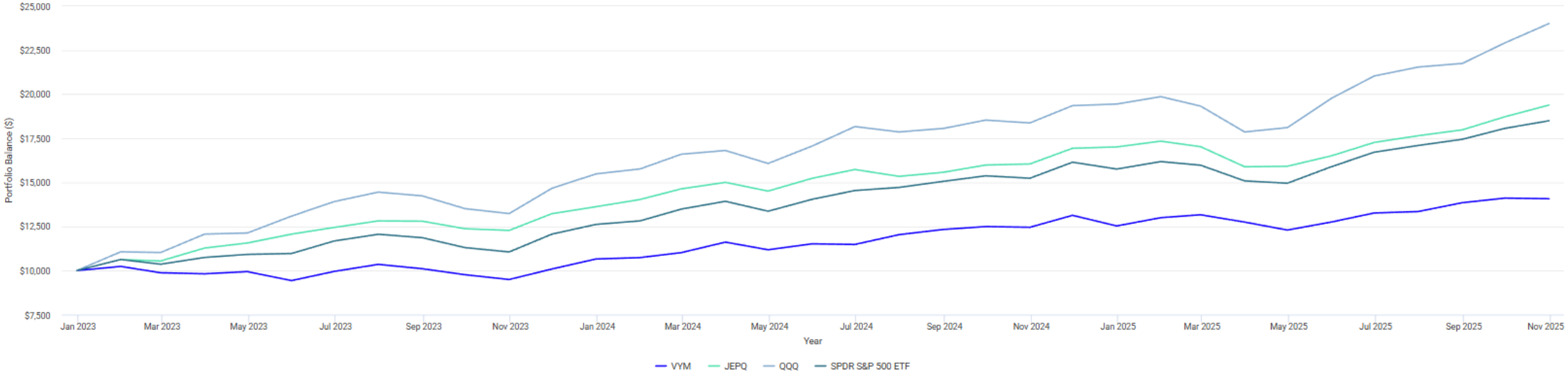
2023年1月に初期投資$10,000→2025年10月終了時点の資産

VYM（インデックス・高配当）：$14,075(12.82%/年)、Maxドローダウン-8.29%

JEPQ（アクティブ・高配当）：$19,393(26.33%/年)、Maxドローダウン-8.38%

QQQ（インデックス・成長）：$24,017(36.24%/年)、Maxドローダウン-10.09%

SPY（インデックス・S&P00）：$18,501(24.25%/年)、Maxドローダウン-8.32%



https://www.portfoliovisualizer.com/backtest-portfolio#analysisResults

4.アクティブETF

インデックスETFが主流なのは変わらないが、
データ上で人気が高まりつつある

①バンガード社が同社市場最もコストの高い上場投資信託（ETF）-2025年8月9日
-バンガードは低コストインデックスファンドが主力

②アクティブETFの運用資産が12兆ドル（約1774兆円）規模の業界全体の約10％
-10年前は5％-2025年上期

③米アクティブETF、本数で半数超え　パッシブ*偏重転換の兆し
-アクティブETF1936本vsインデックスETF1935本(ICI2025年6月データ)米投資信託協会
-アクティブETF1.1兆ドルvsインデックスETF10.2兆ドル(米国ETF残高）

https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2025-08-18/T1748TGOT0JQ00　https://diamond.jp/articles/-/369890

4.アクティブETF世界ランク（年初来）

JPMチェース運用のETFがアクティブETFで非常に人気

	銘柄	Ticker	年初来流入額	純資産総額（残高）
1	JPMorgan Nasdaq Equity Premium Income ETF	JEPQ US	約9,926億	約3兆7,900億円
2	Janus Henderson AAA CLO ETF	JAAA US	約6,549億円	約3兆460億円
3	iShares U.S. Thematic Rotation Active ETF	THRO US	約6,424億円	約6,570億円
4	JPMorgan Equity Premium Income ETF	JEPI US	約6,027億円	約5兆7,978億円
5	Capital Group Dividend Value ETF	CGDV US	約5,942億円	約2兆5,350億円
6	YieldMax MSTR Option Income Strategy ETF	MSTY US	約5,571億円	約6,662億円
7	iShares U.S. Equity Factor Rotation Active ETF	DYNF US	約5,563億円	約2兆6,060億円
8	Direxion Daily TSLA Bull 2X Shares	TSLL US	約5,154億円	約6,628億円
9	JPMorgan Ultra-Short Income ETF	JPST US	約4,900億円	約4兆5,494億円
10	PIMCO Multisector Bond Active ETF	PYLD US	約4,049億円	約7,966億円

https://www.rakuten-sec.co.jp/web/special/fund/rakuten_jepq/

4.アクティブETF世界ランク（年初来）

銘柄	Ticker	楽天証券	特徴	配当率	配当月
JPモルガン・ナスダック米国株式・プレミアム・インカムETF（JPMorgan Nasdaq Equity Premium Income ETF）	JEPQ	○	カバードコール戦略採用のアクティブETF。高いインカムゲインとある程度の上昇益を狙う。ナスダック100指数がベンチマーク	10.12%	毎月
Janus Henderson AAA CLO ETF	JAAA	×	高品質なCLOに投資するETF。当該資産クラスは、一貫したリスク調整後リターンを提供し、伝統的な固定利回り資産クラスとの低い相関性を示しつつ、低いボラティリティと低い格下げリスクを併せ持つ可能性がある。	5.54%	毎月
iShares U.S. Thematic Rotation Active ETF（iシェアーズ米国セマティック・ローテーション・アクティブETF）	THRO	×	AIやデータ駆動型の洞察を活用し、人工知能やインフラといった進化する市場テーマの中から、平均以上の収益成長が見込める米国の株式銘柄に機動的に投資	0.16%	四半期
JPMorgan Equity Premium Income ETF（JPモルガン・米国株式・プレミアム・インカムETF）	JEPI	○	カバードコール戦略採用のアクティブETF。高いインカムゲインとある程度の上昇益を狙う。S&P500指数がベンチマーク	8.35%	毎月
Capital Group Dividend Value ETF	CGDV	×	米国株の平均利回りを上回るインカム（配当収入）と、元本の長期的な成長を目指す。ベンチマークはラッセル1000バリュー指数。年初来はQQQよりを凌ぐ	1.31%	四半期
YieldMax MSTR Option Income Strategy ETF	MSTY	×	カバードコール戦略採用のアクティブETF。MSTR（マイクロストラテジー）をベース投資家に高水準のインカムの提供を目指す。配当利回り予測値約700％	219.7%	毎週
iシェアーズ米国株ファクター・ローテーション・アクティブETF (iShares U.S. Equity Factor Rotation Active ETF)	DYNF	×	米国の大型・中型株式市場をアウトパフォームすることを目指し、複数の投資ファクター（要素）間で動的に配分を変更。（モメンタム・クオリティ・バリュー・低ボラ・サイズ・グロース）	0.99%	四半期
Direxion Daily TSLA Bull 2X Shares	TSLL	○	テスラ株の値動きの2倍の動きをするロング用のレバレッジETF	1.85%	四半期
JPMorgan Ultra-Short Income ETF（JPモルガン・ウルトラショート・インカムETF）	JPST	○	米ドル建ての投資適格債券に投資するアクティブ運用型のETF。ICE BofA USトレジャリービル(3カ月)指数をベンチマーク	4.55%	毎月
PIMCO Multisector Bond Active Exchange-Traded Fund	PYLD	×	投資適格債やハイイールド債など、多様なセクターの債券を組み入れ	5.92%	毎月

https://www.rakuten-sec.co.jp/web/special/fund/rakuten_jepq/

4.全ETF世界ランク（年初来）

年初来流入額でも急激に人気を伸ばしてきている

	銘柄	Ticker	年初来流入額	純資産総額（残高）
1	Vanguard S&P 500 ETF	VOO US	約9兆4,724億円	約96兆5,057億円
2	iShares 0-3 Month Treasury Bond ETF	SGOV US	約2兆7,115億円	約7兆185億円
3	Vanguard Total Stock Market ETF	VTI US	約2兆3,276億円	約69兆6,786億円
4	SPDR Portfolio S&P 500 ETF	SPLG US	約2兆15億円	約10兆230億円
5	iShares Bitcoin Trust ETF	IBIT US	約1兆6,483億円	約9兆9,851億円
6	Invesco QQQ Trust Series 1	QQQ US	約1兆4,080億円	約49兆1,738億円
7	Invesco Nasdaq 100 ETF	QQQM US	約1兆2,584億円	約7兆1,853億円
8	SPDR Bloomberg 1-3 Month T-Bill ETF	BIL US	約1兆1,527億円	約6兆3,808億円
9	Vanguard Growth ETF	VUG US	約1兆505億円	約24兆3,605億円
10	JPMorgan Nasdaq Equity Premium Income ETF	JEPQ US	約9,926億円	約3兆7,900億円

https://www.rakuten-sec.co.jp/web/special/fund/rakuten_jepq/

4.全ETF世界ランク（年初来）

流動性が高く機関投資家のリスクヘッジ目的のETFも人気が高いのがわかる

Ticker	楽天証券	特徴
VOO	○	S&P500に連動するETF
SGOV	×	満期までの期間が3か月以内の超短期米国債に投資するファンド。信用リスクが低く、機関投資家達の資金流入先になる。機関投資家は常に資金を動かす必要がある為非常に重宝されている。
VTI	○	米国企業全体に投資できるETF。楽天VTIはこのETFを投資信託に。
SPLG	×	経費率0.02%の驚異の安コスト、但し流動性が低く約定価格が狙った価格で定まりづらい。それを抜きにすればバックテストでは長期的にSPYやVOOよりパフォーマンスが上になる。
IBIT	×	ビットコインETF。間接的にビットコインに投資可能
QQQ	○	ナスダック１００に連動するETF
QQQM	×	経費率0.15%(QQQは0.2%)、流動性は低いが長期的にはQQQよりパフォーマンスが上に
BIL	×	満期が1ヶ月から3ヶ月の米国財務省短期証券（TBS）のパフォーマンスに連動。TBSは金融界で最も安全な資産とされる。機関投資家の資金流入先になる。
VUG	○	大型グロース株インデックスに連動するETF
JEPQ	○	カバードコール戦略採用のアクティブETF。高いインカムゲインとある程度の上昇益を狙う。

https://www.rakuten-sec.co.jp/web/special/fund/rakuten_jepq/

4.アクティブETF

Ticker	特徴	株価($)	NISA	配当率(%)	経費率(%)	年初来(%)	設定
JEPQ	毎月分配	58.81	×	10.19	0.35	4.5	May-25
JEPI	毎月分配	57.67	×	8.18	0.35	0.8	May-20
JPST	毎月分配	50.75	×	4.51	0.18	0.73	May-17
JAVA	バリュー	71.3	○	1.28	0.44	12.7	Oct-21
JGRO	グロース	94.03	○	0.08	0.44	16	Aug-22
TSLL	レバレッジ	18.2	×	2.21	0.95	-32.8	Aug-22
QYLD	毎月分配	17.42	×	12.6	0.6	-4.1	Dec-13

①JEPQ・JEPI：カバードコール戦略（OTM、out-of-the-money)
→プレミアは安めだが、上昇にはある程度は乗れるオプションを利用

②JPST：米ドル建ての超短期債券に投資するアクティブ運用型ETF
→分配後に下落するので投資は月初がオススメ

③QYLD：カバードコール戦略(ATM、at-the-money）
→プレミアは高め。但し株価上昇にはほぼ期待できないオプションを利用

https://www.rakuten-sec.co.jp/web/special/jpm-usetf/#skip_03

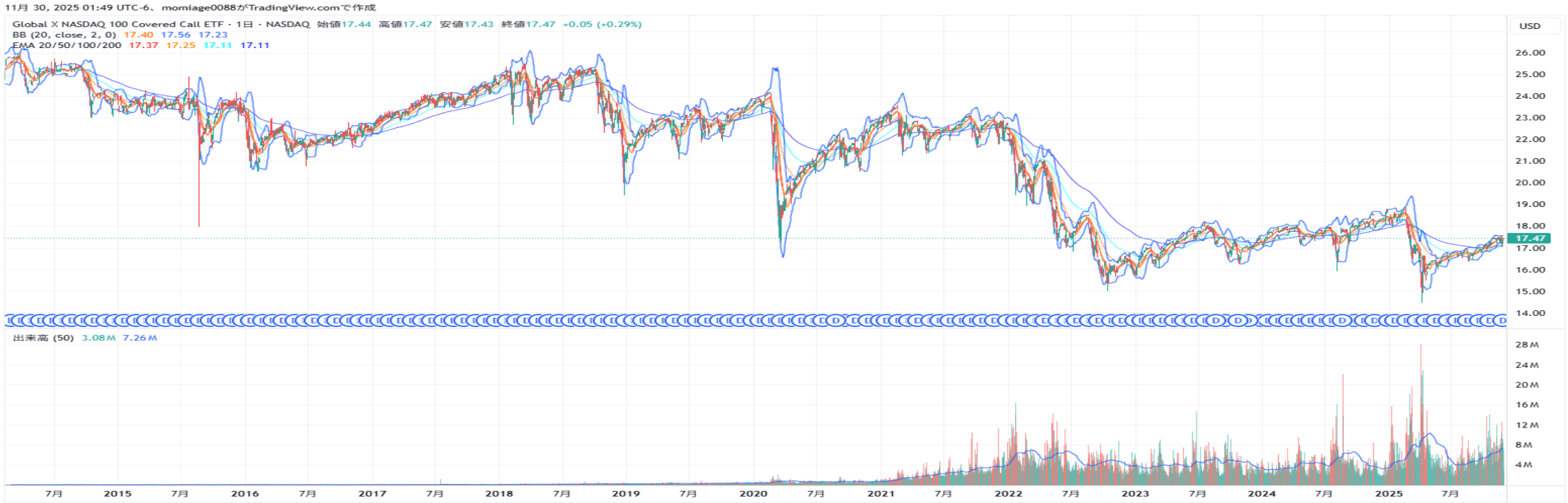
https://www.daiwa-am.co.jp/funds/doc_open/fund_doc_open.php?code=4656&type=1

https://am.jpmorgan.com/content/dam/jpm-am-aem/asiapacific/jp/ja/regulatory/annual-report/ar-jepq.pdf

4.アクティブETF

JPST

QYLD



5.運用方針サマリー

・インデックスをコア（50-100％位）

・サテライトでアクティブ（20-40％位）

・JEPQ、JPSTなどを加える場合はVYM少なめに

・可能な限り経費が安いETFで運用

・アクティブは運用期間が短いので注意

5.インデックスオススメETF

S&P500 インデックス (全米含む)	**VOO** 配当率1.12％ 507銘柄（トップ10 38%) 年初来15.99% 時価総額荷重平均	**SPY** 配当率1.06％ 503銘柄(トップ10 40%) 年初来 15.97% 時価総額荷重平均	**VTI** 配当率1.12％ 3,793銘柄トップ10 35%) 年初来15.4% 時価総額荷重平均
成長	**QQQ** 配当率0.45％ 101銘柄(トップ10 53.8%) 年初来20.16％ 時価総額荷重平均	**VGT** 配当率0.39％ 323銘柄(トップ10 60%) 年初来20.1% 時価総額荷重平均	**SMH** 配当率0.3％ 323銘柄(トップ10 76%) 年初来43.6% 時価総額荷重平均
高配当	**VYM** 配当率2.5％ 469銘柄(トップ10 26%) 年初来13.1% 時価総額荷重平均	**HDV** 配当率3.17％ 81銘柄(トップ10 54%) 年初来9.83% 時価総額荷重平均	**SPYD** 配当率4.59％ 82銘柄(トップ10 15.3%) 年初来1.02% 高配当利回り上位80銘柄 にほぼ均等に投資するETF

6.銘柄選び方サマリー

1. 難しいならSP500一択（VOOやSPYなど）
2. リスクの取り方を考える（家庭・環境に応じて）
3. モメンタム・トレンドで勘違いしない
4. 株式はリスク資産（生活防衛資金は残して）

6.終わりに（振り返り）

・個人投資家はマイペースに

・誰も未来は予想はできない。予想が外れたらアジャストする柔軟さは大切

・チャンスを逃さない準備も同時に

・周りに影響されずコツコツと時間を味方につける

Keep your fingers crossed!!